

氏名	花 房 英 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1844 号
学位授与の日付	昭和62年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	<b>胃膵分泌相関からみた十二指腸潰瘍の発生病理</b> <b>第1編 外因性刺激に対する胃液および純粋膵液の分泌動態</b> <b>第2編 胃酸分泌および内因性刺激に対する純粋膵液の分泌動態</b>
論文審査委員	教授 辻 孝夫    教授 太田善介    教授 折田薫三

### 学位論文内容の要旨

第1編 十二指腸潰瘍の発生病理を胃・膵分泌相関の面から検討した。膵液採取には筆者らが考案した内視鏡的純粋膵液採取法を用いた。対象は正常対照者，活動期十二指腸球部潰瘍患者，活動期胃潰瘍患者の3群である。外因性刺激に対して十二指腸潰瘍群は胃酸分泌，膵重炭酸塩分泌ともに他の2群より有意の亢進を示した。全例を通じて胃酸分泌と膵重炭酸塩分泌の間には有意の相関を認めた。

第2編 正常対照者，活動期十二指腸球部潰瘍患者，活動期胃潰瘍患者について胃酸分泌および十二指腸内塩酸注入による内因性刺激に対する膵液の分泌動態を比較検討した。十二指腸潰瘍群は胃酸分泌，膵重炭酸塩分泌ともに他の2群より有意の亢進を示した。また，全例を通じて胃酸分泌と膵重炭酸塩分泌の間には有意の相関を認めた。内因性膵刺激前後の血中セクレチン濃度は3群間に有意差を示さなかった。

以上の成績から，膵重炭酸塩分泌の相対的不足にもとづく十二指腸内における胃酸中和能の欠落が十二指腸潰瘍の発生原因とは考えられない，との結論に達した。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は，胃膵分泌相関からみた十二指腸潰瘍の発生病理について臨床的に研究したものであるが，方法的に内視鏡的純粋膵液採取法を用いて新しい知見を得たもので価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。